



(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

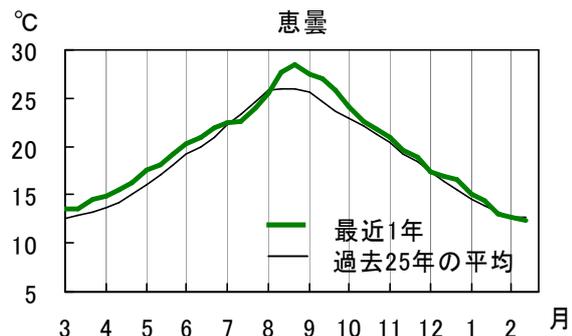
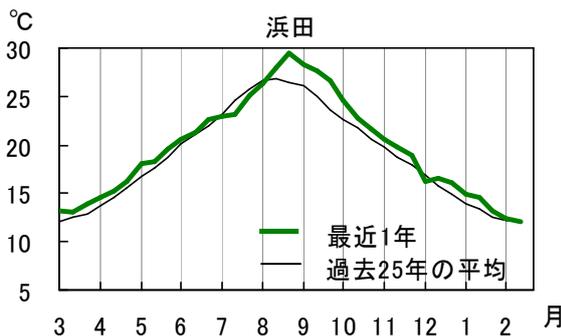
<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

(TEL 0855-22-1720)

《1-2月の海況》

1月	月平均	平年差	評価
浜田	14.2℃	+0.9℃	やや高め
恵曇	14.2℃	+0.2℃	平年並み

沿岸定地水温は、1月は浜田では平年よりやや高め、恵曇では平年並みとなりました。2月は浜田、恵曇とも平年並みで推移しています。



《1月の漁況》

【中型まき網漁業】

各地区ともこの時期の主力のマアジ、マサバが不調だったことから漁獲量は平年の5割と低調でした。しかし、浜田ではマアジの漁獲サイズが大きく単価が高かったことから漁獲金額は平年の1.4倍となりました。浦郷、西郷でもマアジの単価が高かったことから漁獲金額はそれぞれ平年並み、平年の8割でした。

【イカ釣漁業】

各地区ともスルメイカ主体の漁獲でした。浜田港(属地5トン以上)の漁獲量は前年の2割、平年の3割と低調でした。西郷(属人5トン以上)では隠岐諸島周辺である程度まとまった漁場形成が見られましたが、漁獲量は比較的好調であった前年の6割で平年並みに留まりました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港では1ヶ統1航海あたり漁獲量は、ほぼ平年(過去10年平均)並みで、前年をやや下回りました。漁獲の主体はソウハチ、ムシガレイ、アンコウ、イボダイでした。

【小型底びき網漁業】

久手地区ではソウハチ、アンコウが、和江地区ではソウハチ、アンコウ、イボダイが主に漁獲されました。総漁獲量、1隻1航海あたり漁獲量は、両地区とも平年を上回りました。また、アカガレイがまとまって漁獲され始めました(久手:4.8トン、和江:5.3トン)。

【定置網漁業】

石見地区はスズキなどが漁獲されましたが、漁獲量は平年の6割でした。出雲地区ではマアジ、スルメイカ、サワラ、ヤリイカなどが多く漁獲されたため、漁獲量は平年の1.8倍と好調でした。隠岐地区では漁獲物の9割を占めるスルメイカが平年の約1.6倍と豊漁で、全体の漁獲量も平年の1.6倍となりました。

【釣・縄】

石見地区ではサワラ、アマダイ、メダイなどが漁獲され、漁獲量は平年の8割でした。出雲地区ではブリ、サワラ、ヤリイカなどが漁獲され、漁獲量は平年の8割でした。隠岐地区ではメダイ、スルメイカを主体に、漁獲量は平年の7割でした。

【平成 20 年 1 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海あたり漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
まき網 (中型・大 中型)	浜田	マアジ、マサバ、マルソウダ	400トン	40	53	22トン	40	39	▲
	西郷	マアジ、マサバ	1,600トン	26	53	33トン	40	68	▲
	浦郷	マアジ、ブリ、スルメイカ	872トン	25	45	22トン	38	52	▲
イカ釣り (5トン以上)	浜田	スルメイカ	61トン	22	31	830kg	88	94	○
	西郷	スルメイカ、	32トン	61	101	223kg	72	78	▲
沖合 底びき網	浜田	ソウハチ、ムシガレイ、アンコウ、イボダイ	276トン	99	91.8	11.5トン	74	100	○
小型 底びき網	久手	ソウハチ、アンコウ	163トン	103	140	685kg	99	122	◎
	和江	ソウハチ、アンコウ、イボダイ	252トン	113	137	841kg	115	130	◎
定置網 (大型)	浜田	スズキ	1トン	255	31	192kg	130	60	○
	美保関	マアジ、スルメイカ、サワラ	109トン	266	201	1217kg	120	228	◎
	浦郷	スルメイカ	40トン	90	118	2482kg	110	116	○
釣り・縄	仁摩	メダイ、サワラ	15トン	109	92	40kg	87	70	▲
	大社	ブリ	11トン	69	50	26kg	88	57	▲
	西郷	メダイ、スルメイカ	18トン	82	73	66kg	114	91	○

平年比：過去 5 年（沖底のみ 10 年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下